

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

多世代の笑顔が輝く超高齢未来をめざして

柳沢公民館主催「いきいき超高齢社会チャレンジ講座」

柳沢公民館が平成25年度から実施している「まちづくりチャレンジ講座」では、幅広い年代の市民が参加する「準備会」で地域課題を掘り起こし、講座を企画しています。日本は今後、世界に先例のない超高齢未来を迎えることとなりますが、今年度は、「この「少子超高齢社会」の課題を取り上げました。講座の学びの概要を報告します。」

課題を共有した準備会

全5回の準備会には、平均12人の子育て世代からシニアまでの幅広い市民が参加し、「生産年齢人口の減少による労働力の不足」「社会保障費の増大」「介護負担の増大」などがもたらす経済の停滞や社会保障の破綻等への危惧を共有しました。そして、この超高齢社会の課題の解決に向けて、多世代が学び合い、交流する場が必要と考え、全7回の講座を企画・実施しました。

ピンチをチャンスに変える「プラチナ社会」

本講座のスタートは、三菱総合研究所プラチナ社会研究センター・チーフプロデューサーの松田智生さんの講演で、講座の核になる前向きなヒントを受け取ることができました。

国の税収55兆円のうち、50兆円が医療・介護費に使われ、毎年膨らんでいくという現実の中で、今求められるのは、発想の転換で、シニアは、社会のコストではなく担い手であるということ。シニアの2割が積極的に活動できるアクティブ層、6割が気持ちはあっても一歩踏み出せない潜在アクティブ層、2割が健康面等の理由から動けない非アクティブ層。そのままでは非アクティブ層になる可能性もあるけれど、きっかけさえ

世代を越えて語り合う

職場体験中の保谷中学校2年

西東京市の取り組みと可能性

理念を共有した後、西東京市の様々な実践に目を向けると、そこに、大きな可能性を見出すことができました。

「サポートハウス年輪」は、介護保険が始まる前から、高齢者が最期まで地域で安心して暮らせるための「介護」や「食」に取り組んでいます。西原地域包括支援センターは、生活状況調査をもとに情報を整理して高齢者にアポなし訪問を実施したところ、それが地域活動に参加するきっかけとなり、閉じこもりリスクを減らすことができました。社会福祉協議会の「ほっとネットステーション」では、一人ひとりの困りごとに寄り添い、相談に応じていますが、地域で何か活動をしたいという地域活動に関する相談が一番多いといえます。



まちづくり円卓会議(中央が円卓メンバー、周囲は参加者)

切さを皆が実感しました。
まちづくり円卓会議で

危機的状況を乗り越え、新しい社会を構築していくためには、自治体・企業・大学・市民など異なる立場の主体が、価値観を共有し、協働で課題の解決に向けて取り組むことが重要です。そういった場を実現するために、講座の終盤、市民協働推進センター「ゆめころほ」と連携して、潜在アクティブシニアへの働きかけを視野に入れた「まちづくり円卓会議」を実施しました。円卓メンバーには武蔵野大学社会福祉学科学科教授、行政(高齢者支援課)・社会福祉協議会・地域包括支援センターの各メンバーのほか、3人の講座受講生(シニア世代、子育て世代、事業主)も加わり、講座での学びを活かしながら対話に参加しました。後半は、受講者を含む、その他の参加者巻き込んで、対話の輪を広げました。

学びを未来につなぐ

それぞれの思いを乗せて企画・実施した本講座ですが、円卓会議での対話は、それを重ねること、新たな実践を生みだそうとしています。学びは、生きがいを創出します。一人ひとりが自らを豊かに成長させる営みとしての学びを継続し、行動につなげることで、社会は大きく変わります。公民館では、多世代の笑顔が輝く超高齢未来の構築に向けて、社会教育機関としての役割と責任の重さを実感しています。

世界とのツナガル

平成26年度のひばりが丘公民館の多文化共生をテーマにした主催講座から立ち上がったサークル「世界とのツナガル」は、国籍を超えて交流する子育て中のお母さんの集まりです。



谷戸公民館で活動しています

サークル発足後、講座の学びを生かして地域貢献につながる何かができないかと思いついていた代表の高橋さんは、ひとりの中国人の母親から「小学校に入ったら日本人ママと話す機会がなくなった。宿題の採点に自信がない」と相談された時、「これだ!」と思ったそうです。日本に住んでいる外国出身の母親たちが、日常生活の中で直面する困りごとを一緒に解決していったらと考え、平成27年9月から現在の活動を始めました。

以来、幼稚園や学校からのお知らせを一緒に読んだり、幼稚園に持っていきお弁当の中身について助言したり、病気の子どもに症状をどう医師に伝えるかの相談ののったり…。サロンのような和気あいあいとした雰囲気の中で生活に即した情報を提供しています。

初め8人だった会員は口コミで広がり、今では登録会員数が30人ほどになりました。仕事や他の用事と重なる会員もいるため、毎回参加できる人数は5〜6人ですが、フリータイムで楽しい時間を過ごします。暮らしの中で身近な国際交流をしています。

写真で見る いまむかし 青梅街道の橋場

武蔵野台地に位置し、水が乏しかった田無に用水が引かれたのは1696(元禄9)年のこと。現在の小平市小川町で玉川上水から分水し、芝久保を通って橋場で2つの水路に分かれました。この時、初めて青梅街道に橋が架けられました。「橋場」という地名の由来と思われれます。



青梅街道の橋場 昭和34(1959)年1月撮影 西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



現在の橋場 撮影:水口トミオ(保谷町在住)